

巡ってみよう!

原町田七福神

五穀豊穡の福神様
大黒天
 小田急線町田駅東口
 カリヨン広場
 原町田6-12-20

芸術財福の福神様
弁財天
 母智丘神社
 原町田5-12-11

商売繁盛の福神様
恵比寿神
 町田天満宮
 原町田1-21-5

家庭円満の福神様
布袋尊
 宗保院
 原町田1-8-13

不老長寿の福神様
寿老人
 勝楽寺
 原町田3-5-12

財宝守護の福神様
福祿寿
 町田商工会議所
 原町田3-3-22

福寿増長の福神様
毘沙門天
 浄運寺
 原町田6-21-28

※11月現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、スタンプを撤去しています。
 ※スタンプをご希望の方は、「まちの案内所 町田ツアーリストギャラリー」ですべて押印できます。

A 国際版画美術館

世界でも数少ない版画専門の美術館として1987年にオープン。奈良時代から現代まで、日本・世界の版画約30,000点を収蔵し、版画の歴史や制作技法の変遷等を調査するほか、企画展等を通して版画の魅力を発信しています。

■開館
 平日10:00~17:00 (入場は16:30まで)
 土日祝10:00~17:30 (入場は17:00まで)
 ※月曜(祝日・振替休日の場合はその翌日)、12月28日~1月4日
 ▲原町田4-28-1
 ☎042-726-2771
 ㊟あり



喫茶 喫茶けやき

(国際版画美術館内)

グリルサンドは、人気のこんがり焼いた食パンに、スモークチキンとトマト、ほうれん草をたっぷり混ぜた食べ応えある一品。テイクアウトも可能。単品480円(税込)

■営業 平日10:30~16:30
 土日祝10:00~16:30
 ※月曜(美術館と同じ)
 ☎042-728-8062



緑あふれ、人々が思い思いの時間を過ごしています。

B 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡)

牢場遺跡、稻荷山遺跡、八幡平遺跡の3つからなる縄文時代の集落跡。稻荷山遺跡は現在埋め戻されているため実物の遺構を見ることはできませんが、牢場遺跡はガラス越しに見学された当時のまま実物の遺構を見学することができます。国指定史跡。
 ※八幡平遺跡は整備工事のため見学不可



写真提供:東京都町田市教育委員会



コースガイド

約5.4km・約2~3時間コース

- 1 小田急線町田駅東口カリヨン広場(大黒天)からスタート。交番向かい側の路地から郵便局沿いの道に入る
- 2 町田街道を渡って直進。母智丘神社(弁財天)を参拝
- 3 神社本殿横から路地に出て、芹ヶ谷公園に入り縦走する
- 4 公園を出て4辻を右折。少し坂道を登り、木々の茂りを頼りに原町田ふるさとの森(旧原町田市民の森)に入る。森林浴を楽しみながら道沿いに歩を進める
- 5 森を抜けたら左折。住宅地と生垣に沿って道なりに進み、右折
- 6 熊野神社境内に沿って進み神社裏手の路地

- 7 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡・稻荷山遺跡)を過ぎ、成瀬街道の交差点を渡り道沿いに直進する
- 8 参宮橋を渡り町田天満宮(恵比寿神)へ
- 9 原町田橋の信号を渡り、宗保院(布袋尊)へ。線路を越え、レンブラントホテル東京町田の横を通過し勝楽寺(寿老人)に寄る
- 10 戻って中央通りの商店街を進む。この道を直進すればゴールのカリヨン広場だが、町田商工会議所横の福祿寿と浄運寺(毘沙門天)、老舗ひじかた園など個性あふれる店舗の寄り道を楽しんで

老舗 ひじかた園

創業160年の老舗茶屋。1階では日本茶や中国茶、マテ茶など世界各国100種類近くのお茶を取り扱っています。2階のカフェコーナーでは美味しい茶の注ぎ方を専門家が教えてくれます。
 ■営業 1F 10:00~18:00
 2F 13:30~17:00
 ※2Fは11月現在、土曜・日曜のみ営業
 ☎木曜 ▲原町田4-3-6
 ☎042-722-3265



煎茶(瑞雲) 968円(税込)
 ※菓子は日によって変わります

C 中央通りにある商店街

創業100年を超える老舗も数多く立ち並ぶ中で、若者向け店舗も混在し活気があります。オブジェが展示されている通りや、歩行者天国になる時間がある通りなど、商店街それぞれにカラーがあります。



まちださんぽ 原町田

「フットパス」は、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことをいいます。普段の生活ではなかなか見られない町田の別の顔もお楽しみください。

監修:NPO法人みどりのゆび

原町田は、町田市民が積み重ねて来た文化を気軽に感じられる地域です。2~3時間のコースで、潤いある森林、歴史を感じる神社、活気ある商店街をめぐることができます。古くは鎌倉街道沿いの本町田が宿場として商業の中心を担っていました。しかし原町田が江戸時代後期に八王子から横浜へ生糸を運ぶ「絹の道」の中継地となったことで、新成や蚕糸、衣料、農具などを取り扱う市が繁栄し、商業発展の中心地となりました。現在でも商店街には創業100年を超える老舗や新進気鋭の店舗が軒を連ね、幅広い世代を惹きつけています。

【原町田を歩く心得】

街中を歩く際は車や自転車に気を付け、交通ルールを守って歩くようにしましょう。街中のさんぽは寄り道も醍醐味のひとつ。周囲のお店に足を延ばし、掘り出し物や魅力的な店主との会話など一期一会を楽しんでみてください。

※本地図は概略です。実際の道路状況やルートは事前にご確認ください。
 ※監修するNPO法人みどりのゆびが発行する「まちだフットパスガイドブック」は、久美堂や啓文堂で販売されています。